



馬頭町広重美術館 友の会ニュース〈第1号〉

風の色



明治十一年 長谷川工部局 東洋工部局
月 日 出 展 人 堀田熊次郎 通 小村清親

橋玉あ いえんほす

開館記念展を終えて

館長 稲垣進一

十一月三日から十二月三日までの一カ月間、馬頭町広重美術館は「広重肉筆画名作展―青木コレクションを中心に―」を開催し、予想を越え三万六千人の来館者をお迎えしました。

土・日曜には入館一時間待ちで、熱心に観賞する方であらうでした。県内はもちろん近県や東京からも多くの車で、八十台入る駐車場は常に満杯の状態でした。これは何を意味するのでしょうか。この閉塞した時代に多くの人がとは芸術の中に出口を求めているのではないのでしょうか。荒廃した社会の中で心をいやしてくれる一服の清涼剤が広重の肉筆画であつたと思えます。静謐な広重の肉筆画を人びとは食い入るように眺め、広重の世界に魂を浮遊させているようでした。広重の絵には誰でも受け入れてくれるやさしさがあります。

広重の作品は多くの方がたに感動を与えたのでした。

これからも楽しくユニークな企画を展開していきたいと考えています。今後とも多くの皆様のご来館をお願いいたします。

「千ほんくゐ両国橋」小林清親（こはやしきよちか）
千本杭は、百本杭ともい、隅田川の流れがこの場所ので湾曲し岸が削られてしまうので、多くの杭を打ち岸を保護しました。

本図は、杭を大きく前景に配し、遠景に両国橋、空の雲や川面は夕日に輝いています。杭の打たれている場所の多くは魚の住処になっていたために釣り人で賑わったといえます。現在の墨田区横綱一丁目、田安田庭園の辺りです。

展示／二月十六日（金）～三月二十日（祝）

馬頭町広重美術館 「友の会」発足に当たって

「友の会」会長 桑野 弘

馬頭町広重美術館の開館記念、「広重肉筆画名作展」には、三万六千余名の方々が来館され、広重美術館は幸先のよい発足をいたしました。そして「友の会」入会者数も六百人以上となり、美術館の心強い支えとなりつつあります。

さて、平成六年の「いわむらかずお絵本原画展」、九年の「星野道夫写真展」などの展覧会を町民の希望にそってお世話下さったのが、岩村和朗、星野道夫両氏と親交のあった青木久子さんでした。絵本研究者として世界の絵本作家の最高峰、エリック・カールさん、著名な動物行動学者、ジェーン・グッドール女史など世界の人脉とも繋がりを持つ青木さんですが、馬頭を訪れる度が増す毎に、馬頭の町民の人情と地域に漂う文化的雰囲気愛されるようになり、祖父青木藤作さんのコレクションを馬頭町に寄贈されるという感激的な善意をお示し下さったのでした。こうした事の成行きから考えますと、町内ばかりでなく、県内各地、そして関東一円の個人や法人の皆さんが「友の会」へ入会していただいたことは、広重美術館が地域にとけこみ、皆さんに親しまれる美術館として、心強い第一歩を踏み出すことが出来たことを意味し、皆さんと共に喜びたいと思います。

そして、この「友の会」の仲間として、積極的に美術館を育てて行こうとする頼もしいグループに「美術館ボランティア」があります。この強力な仲間と協力して美術館の自主的支援活動に参加することが「友の会」会員の皆さんに期待されています。

さらに、この美術館は美しい周囲の自然と調和する美術館を目指しています。当館を設計された気鋭の建築家隈研吾さんは日本の建築や美術に深い理解を示したブルーノ・タウトを、隈さんの著書「反オブジェクト」の中で高く評価しています。まわりの景観とよく合った広重美術館はこの建築家の美意識の爽やかな表現とも言えるでしょう。そして館内に配するものが、広重と「明治の広重」と言われる小林清親です。二人とも江戸―東京の景色、特に夜明けやたそがれ、雨や雪を抒情的に活写していると言われています。

「友の会」の皆さんは、四季折々、朝な夕な訪れて、こまやかな情緒に浸っていただきたいと思います。清親の「戦争画」も折井学芸員の指摘のように過去を見つめ直す縁ともなるでしょうし、明治の世相を写す鏡の役目を果たしていると考えます。この他に近代洋画、黎明期の立役者、川村清雄の作品も見逃せません。先頃、林えり子著「福澤諭吉を書いた絵師―川村清雄伝」が出版され関係者の関心を呼んでいます。そして清雄とも関係のあった徳富蘇峰の書は、明治、大正、昭

和を生き抜いた蘇峰の信念と苦悩を私たちに語りかけてくれることでしょうし、青木藤作さんが師事された蘇峰でもありました。

最後に、この「友の会」は、美術館開館を目前にして、拙速で結成されましたが、平成十三年三月初年度を終えることとなります。四月からは本格的な歩みを始めることとなります。その際は、役員なども一新して、町外の方々、法人の方々にも加わっていただき、「友の会」の推進力となる力強い役員構成にすることになっておりますので、その際はぜひご協力くださるようお願いいたします。

この後、皆さんのご支援で一人でも多く一社でも多く入会されることを祈ってご挨拶いたします。

ボランティア活動報告

多くの方々の御協力で「広重美術館開館記念特別展」も盛況のうちに無事終了しました。

開館日数二十七日、入館者総数三六四九七人、ボランティア活動者のべ二三四九人、一日平均八・七人になるが半日勤務者もあり、午後が少人数の日もあった。土・日曜など県内外からの来館が多く、受付や案内など大変な日もあったが「素晴らしい美術館に感激しました。」と言って帰る人を送り出す充実感がありました。美術に関心のある方、生活時間にゆと

りのある方、生涯学習と奉仕活動をしてみたいと考えている方のご参加を希望しています。

(友の会ボランティア部長 磯 敏雄)

ボランティア活動に参加して

気軽な気持ちでお手伝いできればと参加したのですが、浮世絵について関心が高まり有意義な活動になりました。来館者がいない時に、広重の肉筆画をじっくり見ることができ当番が楽しかったです。

絵画の説明を聞かれ答えられないことがあった。浮世絵についてもっと勉強しなければならなかった。

ボランティア活動に町外から参加して下さる人もあり大助かりです。町内で時間にゆとりのある方の参加を期待しています。

友の会会員募集中

〈4月新年度〉

美術鑑賞や美術館、浮世絵や歴史に興味をお持ちの方、もっといろいろなことを知りたい方、馬頭町広重美術館友の会へ入会しませんか。特別展・企画展が無料で何回でも観覧できるなどの特典がございます。

会 費	
●一般会員(一般)	年額 3,000円
(学生)	年額 1,500円
●特別会員(個人)	年額 10,000円
●特別会員(法人)	年額 一口 30,000円

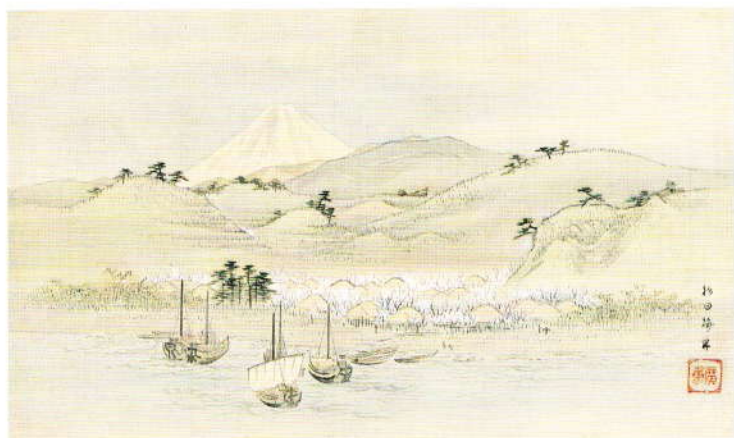
座談会

「広重肉筆画名作展」をみて

出席者／《友の会会員》 天生目英雄・桑野弘・関根理夫・川又眞一郎・木村敦子・岡崎許治（発言順） 司会／稲垣進一

司会／本日は友の会会員の皆様に「広重肉筆画名作展」をご覧になってのご感想をお伺いしたいと思い、お集まりいただきました。まず、美術館建設までのお話からお伺いします。

天生目／私は美術館建設には初めからかわってきました。四年前、貴重な広重



歌川広重 富士十二景 杉田梅林

肉筆画をはじめとする青木コレクションを寄付していただいた時の新聞に「広重の肉筆画が馬頭へ。広重で町が変わる、降って湧いた錦の山。過疎脱却のキメ手に」と毎日のように報道された。やがて美術館を建設することになったが、人口一万四千の貧乏な町ですから平成九年に「美術館建設基金」を創設して募金を開始したわけです。下野新聞に毎日のように寄付者名が報道され、一億二千万円の浄財が寄せられました。

それでこのような立派な美術館が出来たわけですが、ちっぽけな町が文化施設に十二億円もかけるといことは本当に大変なことです。県の大きな支援もあったから出来たんですが、よくやっとな町の英断に対し敬意を払います。そして一番心配だった入館者の数も、毎日の盛況に本当によかったと喜んでるところ。しかし始まったばかり、これからが大切だと思います。馬頭町の美術館に来てよかったと言われるように、町民も一丸となって協力していただきたい。

司会／では、作品をご覧になってどのようにお感じになったでしょうか。

桑野／本邦はじめての広重肉筆画の展覧会で、私は作品を眼のあたりにして広重の真髄・魂にふれたような気がします。広重の精神がこの肉筆画にひそんでいる感じがしました。

関根／そうですね。肉筆画には版画にはないやわらかさ、広重が自分でも大切に

しているものが出ていて、そんな感じ。そういうものが人々を引きつけたのではないかと思います。版画の場合は購買客にこだわっているように感じられるが肉筆画ではこだわりがなく自分の感性だけで描いている。やわらかいね。

川又／広重というと東海道五拾三次の版画を考えていたんですが、こんなにいっぱい肉筆画があったなんて予想していません。ただだけに驚きですね。《江都八景》の「両国橋下」の美人画が気に入って額に入れて飾っています。

木村／私は今までに観光客としていくつかの美術館に行ったことはあるんですが、出会ったのはどこもとど西洋の絵で、日本画というものをしみじみと見たのは、今度がはじめてでした。一枚の絵からいろんな物語や時間を想像でき、絵の中にある余白、空間を発見し、楽しむことが出来ました。

岡崎／私が感じたことは、こんな素晴らしい絵が展示されているのに、小中学生があまり来なかったことです。百五十年前の江戸時代にこういう遠近表現があったことを見てものを考える。たとえば江の島の絵だって現代アートに通じるものがあります。こういうものを子どもたちに見せて、考える力をつけてもらいたいと思うんです。

司会／まだまだお話は尽きませんが、浮世絵の魅力は今後の企画展で展開されますので、ご期待いただきたいと思います。



開館記念講演会・国際浮世絵学会会長 山口桂三郎先生



入口に向かう来館者と迎える友の会ボランティアの皆さん

来館者から
多くの声が寄せられました。
アンケートの中から
その一部を紹介します。

◆ これだけの作品を見せていただき、また立派な美術館が紅葉のはじまった自然にとけこんだ環境などを考えると、入場料はとても安い気がします。(横浜・40代女性)

◆ 照明に限りのある中で明るさを感じられる作りになっていると感心しました。(宇都宮・20代女性)

◆ 作品とガラスの距離が他の美術館より狭く感じ、老眼鏡にもやさしかった。(横浜・60代男性)

◆ 広重だけでなく、この時代に活躍した浮世絵師の作品も展示してほしい。(大田原・50代男性)

◆ これからは地区の皆様の協力によって、ますます馬頭町が全国に知られることを！これからも栃木県の顔としてスマイル

をいつまでも！(小山市・50代男性)

◆ 楽しみにしていた広重の肉筆画、見せていただきました。素晴らしいの一言、堪能しました。(宇都宮市・50代男性)

◆ とてもわかりやすく解説していただいて感謝します。本物の良さに感動しました。(栃木県大平町・40代女性)

◆ 学生ボランティアがいて、地域をあげての美術館らしくて良かった。(東京都・20代女性)

◆ どんな美術館が作られるかわくわくして待っていました。地元材を使つての平屋でワイワイと感激！年配者・弱者への配慮もグー。(宇都宮市・50代女性)

◆ 広重の作品を中心に江戸期の浮世絵を次々に展示していただきたい。また来たいと思います。(千葉県・50代男性)

◆ 肉筆画をこれだけ一堂に見られる感激。あまり欲張つて手を広げず、堅実な運営を望みます。(宇都宮・50代女性)

◆ 入口で「いらつしやいませ」とお迎え

を望みます。(宇都宮・50代女性)

くださった方が町長さんと伺い感激しました。白いジャンパーを着たボランティアの方々もみなさん親切でした。(横浜・40代女性)

◆ 隈研吾さんが設計。この建築物を見る目的で来ました。若い建築家なので若い人もたくさん見えるでしょう。(宇都宮・20代女性)

◆ 休憩所から見える庭は竹林や敷石が素晴らしいので、夜などに能や日本の伝統芸能を見せる場所として活用したらどうでしょうか。(茨城県・20代女性)

◆ 解説は字が大きくてとてもありがたい。もう少し詳しく書いてほしい。(埼玉県・70代女性)

◆ 浮世絵の出来るまでや時代背景を説明したビデオを上映しているのとてもよくわかる。(栃木県喜連川町・40代女性)

◆ とてもよい美術館。町の取り組みに県民として感謝します。馬頭町広重美術館は世界の中でも素晴らしい位置を占めるでしょう。(宇都宮・70代女性)

◆ もっと早く知って何度も足を運びたかった。心が洗われるような作品に感動した。(栃木県西那須野町・50代女性)

歌川広重「高尾太夫」(部分)



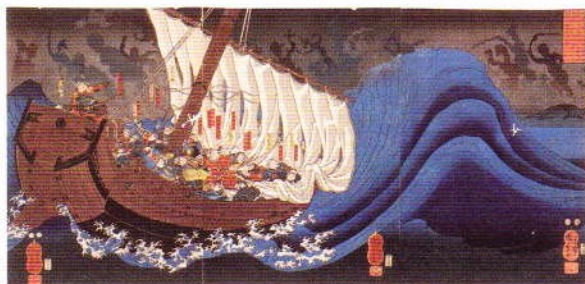
幕末・明治の浮世絵師たち展 (前期) 2/16~3/20 (後期) 3/24~4/22

幕末、江戸の庶民には活気があり、浮世絵師たちも意欲的な制作活動により独自の画風で美人画、役者絵、風景画などを描いていました。明治になると西欧文化の流入により、浮世絵が独占していた分野に石版画、写真が浸透し、浮世絵の衰退を招きました。

しかし、浮世絵師の中には、西欧の絵画から影響を受けつつも独自の画風で作品を発表する絵師も現れました。「光線画」の小林清親、歴史画・美人画の月岡芳年、挿絵画家となった落合芳幾などです。

浮世絵のもっとも活気のあった幕末から、終焉を向かえる明治年間に活躍した浮世絵師を紹介します。

■ミュージアムトーク 2/17(前期) 3/24(後期) 1:30PM~3:00PM
■講演会「幕末・明治の浮世絵師」2/24 1:30~3:00PM 稲垣進一院長
■浮世絵入門講座・北斎 (1) 3/10 1:30PM~3:00PM



幕末・明治の浮世絵師たち展出品(前期) 歌川国芳 大物之浦平家の亡霊

馬頭町広重美術館友の会 ニュース 第1号

平成13年2月28日発行 編集発行/馬頭町広重美術館友の会
〒324-0613 栃木県那須郡馬頭町馬頭1-16-9
TEL 0247-67-1100 FAX 0247-67-1177
http://www.bato-machi-hiroshige-museum.jp/